



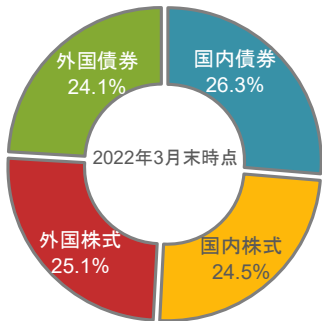
バランス型ファンドは買い時を選ばない

日興アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹

バランス型ファンドは「株が下がりそうなときに買うもの?」「金利が上がると株も債券も下がるので買ってはいけない?」……。長期保有の資産のコア(中心)になるので、買い時は選ばないのです。

■ 私たちの年金がバランス型で運用されている理由

GPIFの運用資産構成割合



(GPIF2021年度業務概況書をもとに作成)
上記は過去のものであり、将来を予測するものではありません。

世界有数の資産規模を誇る日本の年金は、GPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)が、長期的な観点に立った分散投資を基本として運用しています。その仕組みは、債券と株式、国内と海外をそれぞれ半分ずつとし、4つの資産の基本配分比率を25%ずつにする「バランス型」運用です。株式が下がりそうだから、金利が上がりそうだから、といった時に、配分比率を変更することがあったとしても、ほんのわずかです。

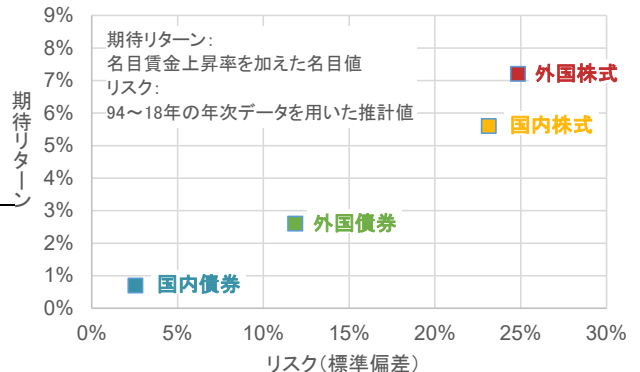
これは、一言で言うと「どの資産が一番値上がりするのか、分からない」からです。一つの資産に集中投資するのではなく、元本保全のための債券と経済成長に参画する株式を組み合わせ、長期にバランスよいリターンを目指すためなのです。

■ 「半分株式・半分債券」のバランス型の期待リターンは4%程度

バランス型のリターン(収益率)はどの程度期待されるのでしょうか。GPIFの「ヒント」をみると、4つの資産を25%ずつ配分したバランス型のリターンは4%程度を期待しているようです。

大きな値上がりを期待する投資家には足りないように思えますが、100万円投資して年+4%であれば、10年で140万円程度、20年なら180万円程度が期待できるのです(保守的に単利計算)。国内外の債券と株式を組み合わせ、成長のリスクを取るものの、預貯金以上のリターンが期待されるのであれば、「潤いのある暮らし」を目指すために、バランス型が資産運用の「コア」資産として適切と思います。

各資産のリスク(標準偏差)と期待リターン



(GPIF2021年度業務概況書をもとに作成)
上記は過去のものであり、将来を予測するものではありません。

■ 株が下がりそうだからバランス型ファンドを持つ、ではない

バランス型ファンドを持つことは、「株より安全」だからではなく、そもそも、一般的に3~4%程度のリターンを目指す運用が、長期的にちょうど良いリスクと期待リターンのバランスで投資することといえるからです。株式や債券の比率(つまりリスク)を安定させてくれるといった大事な役割も果たしてくれるので、市場のタイミングに合わせるのではなく、本当に長期運用するための方法が、バランス型ファンドを持つことなのです。

●当資料は、日興アセットマネジメントが投資についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。●投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。●当資料の図表等はすべて過去のものであり、将来の市場環境の変動等を約束するものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。また記載内容の正確性を保証するものではありません。